ヨハネの黙示録
この書の著者は冒頭に記されている通りヨハネです
このヨハネは福音書とヨハネの手紙を書いた
イエスが愛された弟子かもしれませんし
あるいはユダヤ人で預言者として旅をしながら
初代教会で教え歩いたヨハネかもしれません
どちらにしろ彼は最初の段落でこれがどんな書かを明らかにしています
黙示録は黙示や啓示を記した黙示文学というジャンルに属します
これはギリシャ語ではアポカリプスでヨハネの時代の読者には
旧約聖書や他のユダヤ文学を通して非常になじみのあるスタイルの書物でした
黙示文学とは歴史や現在の出来事に対する神の視点を明かす
預言者の象徴的な夢や幻を記したもので
それによって歴史の最終的な結末を踏まえて現在を捉えることができるのです
ヨハネはまたこの書は預言つまり
神が危機の中にいる神の民を警告したり慰めたりするために
預言者を通して語った言葉だと言っています
この書を預言の書と呼ぶことによってヨハネは
これが聖書の預言書の伝統に立ったメッセージの集大成だと言っているのです
またこの黙示的な預言はヨハネが知っている実在の人々に向けて語られました
この書の冒頭と結びを読むと
これはローマ属州の小アジアにある 7 つの教会に宛てた回覧状でした
7 という数字はヨハネにとって深い意味があります
7 日目に安息日を持つというリズムに基づく完成を象徴する数字で
ヨハネは随所にこの 7 という数字を織り込んでいます
この様にオープニングでこの書を理解するための明確な手がかりが記されています
ユダヤの黙示文学は象徴的なイメージや数字を通してメッセージを語ります
これはいつ世界が終わるかについての秘密の暗号めいた予言ではありません
むしろヨハネはこれらの象徴を旧約聖書から引用し
読者が彼が示唆した箇所を調べて
その象徴が何を意味しているかを知ることを望んでいるのです
またこの書は
ヨハネが初代教会の時代の状況について述べている手紙でもあります
後の時代のクリスチャンにも多くの意味をもつ書ですが
まずはヨハネの時代の場所や人を考慮した
歴史的文脈によって読み解かなければなりません
では最初のセクション 7 つの教会へのイエスのメッセージを見ていきましょう
ヨハネはパトモス島に流刑にされている時に
よみがえりのイエスが王として高く上げられている幻を見ました
イエスは 7 つの燃える燭台の間に立っています
この象徴はゼカリヤ書から引用されていて
小アジアの 7 つの教会を指しています
そしてイエスは
それぞれの教会が抱えている特定の問題について述べ始めました
ある教会は富と力を得たために冷淡になり
別の教会は異邦人の神殿で偶像に奉げられたものを食べたり
性交渉をしたりと不道徳なことをしていたのです
しかしイエスに誠実であり続けたために嫌がらせを受けたり

暴力的な迫害を受けている者たちもいました
イエスは事態は悪化していくだろうと警告し
教会に降りかかる苦難は信徒たちに妥協するか
誠実であり続けるかの選択を迫るのです
ヨハネの生きた時代はローマ皇帝ネロによるクリスチャン殺害は終わり
皇帝ドミティアヌスによる迫害が始まろうとしていた時だったと言われています
ですから迫害を避ける意味でもローマに迎合する意味でも
イエスを否定する誘惑があったのです
イエスは彼らに誠実であり続け試練に打ち勝ち勝利を得るように呼びかけています
また勝利した者への報いを約束していますが
それらの報いはこの書の最後のセクションの天と地の結婚の幻でも登場します
この最初のセクションはこの書の筋書きへの興味を掻き立てています
すなわちイエスの民は耐え忍べるのか
彼らは神が備えられた新しい世界を受け継げるのか
なぜイエスに誠実であり続けることが勝利なのか
ということですこの書の続きに答えがあります
ヨハネはこの後天にある神の王座の幻を見ます
それは旧約聖書の預言書からのたくさんのイメージを引用しています
神の周りには創造された世界を代表する生き物や
人間の国々を代表する長老たちがいて
聖なる聖なる聖なるかなと唯一の神の栄誉をたたえ忠誠を誓っています
神の手には蝋で七つの封印がしてある巻物があります
これは旧約聖書の預言書とダニエルの幻を記した封印された書の象徴で
神の国が天にあるように地上にも完全に到来することについて述べています
しかしその巻物を開くことのできる者は誰もいないのですが
ヨハネはそれを開くことができる人のことを聞きました
ダビデの子孫ユダ族から出たライオン　彼なら開くことができるのです
これはメシアなる王が軍事的な力をもって
神の国を到来させるという旧約聖書からの象徴です
ヨハネはそう聞いていたのですが
彼が振り向いて見たのは猛々しいライオンではなく
犠牲にされつつも生きている血だらけの子羊の姿で巻物を開こうとしていました
このイエスを象徴する屠られた子羊はこの書を理解するうえで非常に重要です
メシアなるイエスは十字架にかかり
真の過ぎ越しの子羊として敵のために死に
彼らを贖うことによって打ち勝ち
神の王国の勝利をもたらすという旧約聖書の約束を
成就したとヨハネは言っています
復活があったからこそイエスの十字架上の死は敗北ではなく
かえってそれは王の即位式であり悪を征服する術だったのです
この幻は子羊が王座についておられる方の隣で
その方と共に唯一の創造主と贖い主としてあがめられ
屠られた子羊が巻物を開き始めるところで終わっています
これは歴史をその結末へと導く神の権威の象徴です
次のセクションでは 7 を巡る 3 つの循環を描いています
7 つの封印 7 つのラッパ 7 つの鉢です
そのどれもが正義にあふれる神の国が天にあるように

この地上にも到来することを描いています
この 3 セットの 7 つの神のさばきは
時系列に沿った実際の出来事を並べていて
それは過去もしくは現在もしくはイエスの再臨の時に起こる
ことだと考える人もいます
しかし実はヨハネはすべての 7 という数字を複雑に使っていて
最後の 7 つの鉢は 7 つ目のラッパから
そして 7 つのラッパは 7 つ目の封印から出てきます
まるでマトリョーシカの様にそれぞれの 7 番目が
次の 7 つを含んでいるわけです
またそれぞれの 7 のシリーズは
最後の裁きでクライマックスに達しすべて同じ結果を示しています
つまりヨハネはイエスのよみがえりから
来るべき再臨までの同じ時期のことを
3 つの視点から描くためにこれらの 7 のシリーズを用いているのでしょう
屠られた子羊は巻物の最初の 4 つを解き始めました
ヨハネは 4 人の馬に乗った人を見ます
これはゼカリヤ書 1 章からのイメージで
戦争や征服飢饉や死の時期を象徴しています
つまり歴史を通して日常的に起こる悲劇を表しているのです
次に 5 つめの封印は
殉教した無実のクリスチャンたちが流した血が叫び出し
それが祭壇の香の煙のように神の前に立ち上っている様子を描いています
しかしこれからも殉教するクリスチャンが続くので
休んでいるようにと言われました
その理由はわかりませんがそれが永遠に続くのではないことはわかります
6 つ目の封印は彼らの嘆きに対する神の最終的な応答です
神はイザヤ書とヨエル書に書かれている偉大な主の日をもたらすのです
人々は誰がそれに耐えられようと叫びます
ヨハネはその問いに答えるために物語を中断します
ヨハネは印のついた指輪を持った御使いが来て
試練に耐えている神のしもべたちを守るために印を押すのを見ました
ヨハネが聞いたのは印を押された人の数が 14 万 4 千人であるということでした
これは民数記の 1 章にある軍事的な人口調査のようです
イスラエル 12 部族からそれぞれ 1 万 2 千人がいました
ここで注意したいのはこの軍隊の数はヨハネが聞いたもので
それはちょうど征服するユダ族から出たライオンについて聞いた時のようです
そしてどちらの場合も彼が振り返って見たのは
これらの軍隊のイメージの驚くべき成就である屠られた子羊イエスでした
またヨハネは神がアブラハムに約束されたことの成就として
すべての国々から集められた人々で構成された
神の国に属するメシアの軍隊も見たのです
この多民族から成る子羊の軍隊は子羊の血によって贖われたので
神の前に立つことできます
そして彼らは敵を殺すことによってではなく子羊と同じように
苦しみを受けながら神を証しし続けることによって
勝利するよう召されているのです

この後第七の封印が解かれます
しかし巻物が開かれる前に 7 つの警告のラッパが現れ
祭壇の香から火が取られました
これは殉教者たちの叫びを象徴するもので
それが地に投げつけられると主の日は完了しました
さて 7 つのラッパのセクションでヨハネは話を巻き戻し再び語り始めます
今度は出エジプト記からのイメージを用いています
最初の 5 つのラッパはエジプトに下された災いの再現です
6 つめのラッパで最初の 4 つの封印で現れた 4 人の馬に乗った人が登場します
しかしこれらの災いにも関わらず
出エジプト記でファラオが悔い改めなかったのと同じように
国々も悔い改めることはなかったのです
神の裁きだけでは人をへりくだらせ悔い改めさせることはできないようです
ここでヨハネは再び話を中断します
子羊によって封印が解かれ開かれた巻物を御使いが持ってきて
ヨハネはエゼキエルのように
それを食べて国々にそのメッセージを宣べ伝えるよう言われました
子羊の巻物は開かれ
神の王国がどのように地上に来るかがついに明らかになります
巻物の内容は二つの象徴的な幻の中で説明されます
ヨハネは神の神殿と祭壇のそばにいる殉教者たちを見ました
そして彼らを測って隔離しておくようにと言われました
これはゼカリヤ書 2 章から引用された保護のイメージです
しかし神殿の外庭は保護から除外され国々によって踏みにじられます
これは過去に起こったあるいはこれから起こる
エルサレムの滅亡を描いているのだと考える人たちもいます
しかしヨハネが新しい神殿を神の新しい契約の民の象徴としていた
イエスや使徒たちの伝統にならったと考えるほうが妥当でしょう
その場合このイメージはイエスの信徒たちは国々によって
迫害を受けるかもしれないけれども
その表面的な敗北は彼らの子羊にある勝利を奪いはしないと表しているのです
そのことは巻物の 2 つめの幻にも現われています
神は二人の預言者を国々への証人として立てます
これについても文字通り
いつの日か現れる 2 人の預言者のことを言っているのだという解釈があります
しかしヨハネはこの二人を燭台と呼んでいて
これはヨハネが諸教会を表す時のイメージです
ということはこの幻はモーセとエリヤの後継者として
偶像礼拝をする国々に唯一まことの神に立ち返れ
と呼びかける役割を担ったイエスの信徒たちを表していると考えるのが自然です
ところがここで突然ダニエル書 7 章を思い出させるような恐ろしい獣が登場し
証人たちを打ち負かし殺してしまうのです
しかし神は彼らをよみがえらせ迫害者の前に立派な証人として立たせました
そして最後には国々の多くの民がついに悔い改め
主の日に創造主なる神の栄光をたたえるのです
ここでいったん振り返りましょう
封印やラッパを通して警告された神の裁きは

出エジプト記の災難がファラオの心を頑なにしたのと同じように
国々を悔い改めさせることはできませんでした
しかし子羊は彼の敵を愛し彼らのために死ぬことによって
彼らに勝利したのです
そして子羊の巻物は彼の軍隊である教会の使命を明らかにしています
教会が敵を殺すのではなく子羊にならって愛の犠牲をささげ
敵のために死ぬのを国々が見た時に神の国は訪れるのです
イエスの信徒たちを通して神の憐れみが示されるときに
国々は悔い改めます
ヨハネはこの封印が解かれた巻物の驚くべきメッセージを
この書のちょうど真ん中に置きました
それから最後のラッパが鳴って神の国が天にあるように
地上に来るのを見て国々が震えるシーンがあります
これで教会がどのようにして国々に証しし
新しい創造を受け継ぐのかがわかりました
しかし神の民に戦いをしかけたあの恐ろしい獣の正体は何なのでしょうか
またこの先の物語はどうなっていくのでしょう
それは黙示録の後半で語られます

【要約】

ヨハネによる黙示録は、ヨハネによって書かれた福音書や手紙とは異なる、預言文学のジャンルに属する書物です。ヨハネは七つの教会へのイエスのメッセージを受け取り、イエスの民が信仰を貫き通す重要性を強調します。黙示録には、7 つの封印、7 つのラッパ、7 つの鉢などの象徴的な要素が含まれ、これらは神の裁きと神の国が地上に訪れる過程を描いています。ヨハネはキリストの信徒たちが暴力や戦争ではなく、愛と犠牲によって勝利することを強調し、子羊（イエス）の犠牲が神の勝利の鍵であると述べます。そして、最終的に国々の多くが悔い改めて神の栄光をたたえるという希望的な結末が描かれています。しかし、敵の正体や物語の後続部分については詳細が明かされていません。ヨハネの黙示録は象徴的で神秘的な要素が多いため、解釈は多様であり、これらの要約はその要点を強調しています。